

りんご研究所ニュース



【令和元年度(第40回) 試験成果・情報発表会】

令和元年度試験成果・情報発表会を津軽会場は2月18日に平川市文化センターで、県南会場は2月26日に南部町立町民ホール「楽楽ホール」で開催しました。

津軽会場には350名、県南会場には130名の方々に来場していただきました。

○津軽会場

当研究所の担当者から、「リンゴ黒星病の感染危険度の判定方法」や、「リンゴの授粉及び果実肥大に関する最新研究」、「シャインマスカットの省力果房管理技術」、「昨年話題のいろいろなリンゴ病害虫について」の4つの成果を発表しました。



また、講演終了後には、「ロボット草刈機の実証試験」や「無袋果で長期貯蔵可能なリンゴ品種とその貯蔵法」、「りんご研究所育成品種のカット加工適正」、「リンゴ芯カビ病」など主要な成果をポスター展示するとともに、当研究所育成品種の「星の金貨」、「千雪」、「あり25」、「はつ恋ぐりん」

の試食を行いました。どの品種も好評でしたが、特に「星の金貨」の酸味と甘みのバランスがとれた味や、「はつ恋ぐりん」の甘酸っぱい味が人気でした。



○県南会場

津軽会場で紹介した4つの成果と「ウメ変葉病の伝染経路と防除法」について、当研究所の担当者から発表しました。



講演終了後には、『待望の青森県オリジナル品種おとう「ジュノハート」』などの特産果樹に関する成果を担当職員から来場者からの質問に応じていました。また、来場していただいた方々には、特産果樹防除暦も配布しました。





<写真提供 (公財) 青森県りんご協会>

【令和元年度りんご病害 虫マスター修了式】

2月25日に、青森県りんご協会講堂において、令和元年度りんご病害虫マスター養成事業修了式が執り行われました。本年度は弘前市をはじめとした12市町村委託の36名が1年間の研修を終え、新しく病害虫マスターとして認定されました。新しく認定されたマスターが、それぞれの地域で活躍することを期待しています。

【高品質りんご等果樹生産に向けて活動開始！】

○ 新春剪定大会

1月7日に、青森県りんご協会主催の「青森県りんご新春剪定大会」が開催されました。大会当日は天候に恵まれ、晴天の下会場の弘前市石川のりんご園には約1300人(主催者発表)の生産者が集まりました。わい性台樹では当所の福田典明栽培部長が講師を務め、花芽の付き具合等を見極めながら、わかりやすく丁寧な解説を交えて剪定しました。



○ おうとう「ジュノハート」生産技術研修会

3月24日に、県南果樹部でおうとう「ジュノハート」普及促進研究会主催の第2回生産技術研修会を開催し、約70名が参加しました。

研修では、「着果管理までの技術対策」や「おうとう病害虫防除暦の改正点」について、担当職員から説明しました。その後、圃場において、摘芽処理の実演や定植5年目の「ジュノハート」若木の生育状況を確認しながら、活発な意見交換を行いました。



<新型コロナ対策で全員マスクをつけて研修>

【研究風景】

○ 幼苗選抜

(品種開発部)

交配した種を春を迎える前の2月頃から播種し、発芽して5cm程度の大きさになった実生からDNAを取り、幼苗での選抜を行っています。

落果しやすい、日持ちが悪い、果皮が黄色になる、酸味が高いなどの形質について持っている遺伝子が幼苗の時点で分かるため、良い形質を持つ個体を定植前に選抜できるといった利点があります。幼苗選抜を行いつつ、前年に幼苗選抜して一年養成した個体の苗木の作成や植え付け準備も行うので、春先は作業がかなり忙しい時期になります。



○ マメコバチの巣筒の更新

(病虫害部)

巣筒のアシガヤを割って、取り出したマメコバチのまゆの選別作業の様子です。

穴の開いていない、健全なまゆを選んでいきます。このまゆの中で冬眠しているマメコバチの成虫が、春にリンゴの授粉をしてくれます。

